

2016年11月20日(日)朝10:10～

収穫感謝日、大掃除等

11月第3収穫感謝日共同主日礼拝式説教 日本アライアンス庄原基督教会

説教題：主の裁定基準

聖書：マタイ 25章31～46節

＜口語訳＞

新約聖書42～43頁

マタイ 25章31～46節

＜新共同訳＞

新約聖書50～51頁

マタイ 25章31～46節

＜新改訳第3版＞

新約聖書53～54頁

マタイ 25章31～46節＜塚本訳＞

新約聖書148～149頁

主題：主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

◇**マタイ書**は、使徒**マタイ**が、ユダヤ人の立場で**王なる救い主(メシヤ)**なる**神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。

◇**マタイ24章**から**主イエス様**は、ご自身を**人の子**と呼んで、**人の子の来臨・再臨**について語り、**25章**では、**10人の乙女の譬(1～13節)**、**タラントの譬(14～30節)**、そして、**本日の人の子の裁き・裁きの裁定基準**を提示しておられます。

⇒今日の聖書箇所は、教会暦ではなく、教会行事に位置づけられます「**収穫感謝日**」で、牧会手帳に基づいています。

⇒「**収穫感謝日**」の始まりは、メイフラワー号に載った清教徒(ピューリタン)たちが、新大陸の北米をめざし、新開拓しようとしませんが、挫折、くしくも、現地の人によって助けられ、食料の供給を受けるところからです。

⇒「**収穫感謝日**」は、現地の人々への感謝の日であると共に、**神信仰**を持っていた人々は、旧約の仮庵祭(年の終わりの収穫祭)の意味も加え、「**主への再臨信仰**」を確認しました。

本論；

◇本日、**マタイ書25章31～46節**から主の使信に思い・心をとめます。

◆**マタイ25章46節**；使徒マタイは、苦しむ人々と共におられる救い主(メシヤ)御子イエス・キリスト様を示しています。

◇31～46節；塚本訳◆**人の子の裁き**

「45 その時、王は答える、『アーメン、わたしは言う、このいと小さい者たちの一人にしなかつたのは、わたしにしてくれなかつたのと同じである。』

46 こうして、『この(悪い)人たちは永遠の』刑罰に、正しい人たちは『永遠の命に』入るであろう」と、使徒マタイは語っています。

◇45～46節；「このいと小さい者たちの一人にしなかつたのは、わたしにしてくれなかつたのと同じである」、「『この(悪い)人たちは永遠の』刑罰に」、「正しい人たちは『永遠の命に』入る」と、神の御子・主イエス・キリスト様の裁定基準は、非常に明確です。

⇒主は、いと小さい者たちと主ご自身との扱いを同等においておられます。

- ⇒現代は、民主主義の標語のもと、経済の発展が、その内実であるかのように宣伝し、収益優先を語ります。
- ⇒しかし、民主主義の始まりは、ギリシャの社会の仕組みから始まったもので、多数決優先の社会を基本とした都市国家を築くものだったのです。
- ⇒これに対して、本来覇権主義国家であった、英国は、植民地政策で得た莫大の資産をもって、貧困に苦しむ人々を憐れむ慈善を志したのです。
- ⇒富の分配を旗印とする社会主義国家が台頭すると、国家が主体となって、富の分配をする体制に移行し、民主ではなく、専守への人民の隷属と変質して行きました。
- ⇒**主**が、「いと小さい者たち」と、**主ご自身**を同等に受けとめて下さるのは、民主主義でもなく、覇権主義でもなく、社会主義でもなく、「**創造者**」が、「**被造物**」の弱さを知って、共に生きて下さる「**神の国**」なのです。
- ⇒**神に従う乙女**には**灯油**が、**神のために労する僕**には、**賜物・タラント**が**与えられる**のです。

◆ マタイ25章35～36節 ; 使徒マタイは、神の羊の生き方を求める救い主(メシヤ)御子イエス・キリスト様を示しています。

◇ 31～46節 ; 塚本訳 ◆ 人の子の裁き

「35 『あなた達はわたしが空腹のときに食べさせ、渴いたときに飲ませ、宿がなかったときに宿をかし、

36 裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢に入っていたときに訪問してくれたのだから』と、使徒マタイは語っています。

◇ 35～36節 ; 「あなた達」は、「わたしが空腹のときに食べさせ、渴いたときに飲ませ、宿がなかったときに宿をかし」、「裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢に入っていたときに訪問してくれた」と、主イエス・キリスト様はご自身の右にいる者・羊に語ります(32、33)。

⇒ 神の御子・主イエス・キリスト様は、空腹、渴きを癒し、宿さえ提供し、裸、病気、牢生活という辛さの中にいる時、支えてくれたと、「羊の生き方」をするご自身の右にいる人に賞讃のことばを与え、主の心を心として生きる羊の人を喜んで下さるのです。

◆ マタイ25章37～39節 ; 使徒マタイは、神の羊は、救い主(メシヤ)御子イエス・キリスト様にお仕えした意識がないことを示しています。

◇ 31～46節 ; 塚本訳 ◆ 人の子の裁き

「37 その時、正しい人たちは答える。『主よ、いつわたし達はあなたの空腹を見て食事を差し上げ、渴かれているのを見てお飲ませしましたか。

38 また、いつお宿がないのを見てお宿をし、裸でおられるのを見てお着せしましたか。

39 また、いつ御病気であり、牢に入っておられるのを見て、おたずねしましたか。』」と、使徒マタイは語っています。

◇ 35～36節 ; 「正しい人たち」は、「いつわたし達」は、「あなたの空腹を見て食事を差し上げ、渴かれているのを見てお飲ませしましたか」、「いつお宿がないのを見てお宿をし、裸でおられるのを見てお着せしましたか」、「いつ御病気であり、牢に入っておられるのを見て、おたずねしましたか」と、マタイは語ります。

⇒ 神の羊は、「いと小さい者たち」で、狼などの天敵を恐れ、羊飼いの下で1つ群れをなす。

⇒当然、羊飼いの守りの中で生きる羊には、羊飼いへの信頼と服従はあっても、自分が羊飼いに喜ばれる何かをしたという意識はないのです。

⇒主も、「あなたは施しをする場合、**右の手の**していることを**左の手に知らせるな。**」(マタイ6:3)と、語っておられます。

⇒マタイ5:3、「**神に寄りすぎる『貧しい人たち、』**天の国はその人たちのものとなる**のだから**」とありますように、「**いと小さい者たち**」とは、「**神に寄りすぎる『貧しい人たち』**」です。

⇒「**神に寄りすぎる『貧しい人たち、』**」は、自己絶望の人ですが、現実の私たちは、自己中心で、右手のしていることを左手に知らせたがるのが、実体です。

⇒**OA師**も、ギリシャの首都アテネの病院に元軍事政府の副総理だった方を問安されたことがあるそうで、祈りをされたようですが、その方もクリスチャンとなっておられました。

⇒**OA師**は、そのことを誇ろうとする心が働いたことを告白しておられます。

結論；

◇**神**は、変わらない愛と思いやりの神です。

◇**マタイ書**は、使徒**マタイ**が、ユダヤ人の立場で**王なる救い主(メシヤ)**なる**神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。

◇**マタイ24章**から**主イエス様**は、ご自身を**人の子**と呼んで、**人の子の来臨・再臨**について語り、**25章**では、**10人の乙女の譬(1～13節)**、**タラントの譬(14～30節)**、そして、**本日の人の子の裁き・裁きの裁定基準**を提示しておられます。

⇒「**31 (こんど)人の子(わたし)**が**栄光に包まれ**、『**すべての天使を引き連れて来る**』時には、**栄光の(裁きの)座につく**のである。

32 ありとあらゆる国の人がその前に集められ、**人の子は羊飼**が**羊と山羊と**を分けるように彼らを互にえり分け、

33 羊(である正しい人)を右に、**山羊(である悪い人)**を左に立たせるであろう」と、**神の御子・主イエス・キリスト様**は仰せです。

⇒私たちは、**神の右**だけでなく、**神の栄光の御座**に近づける「**いと小さい者たち**」なのです。